



みなさん、こんにちは。

今日は、業務紹介第17弾として、北海道農業分野の業務内容を、北海道開発局胆振農業事務所宮川係員（入省3年目）より語ってもらいました！



宮川です。少しでも北海道農業に興味を持ってもらえたらうれしいです。

宮川係員（入省3年目）

1. 北海道農業分野の業務の国交省における役割を教えてください。

北海道は、長年にわたる基盤整備の取組を通じて、寒冷な気候や特殊土壌など厳しい自然条件を克服し、地域ごとに特色ある農業が展開され、我が国の穀類、野菜、畜産等の一大産地となっています。

農地や農業用水をはじめとした資源を最大限に活かすため、北海道総合開発計画に基づき、北海道の地域社会や産業等の現状と将来展望を分析しつつ、北海道農業の生産基盤発展に向けた企画・調整・調査・工事等を実施しています。

なお、国交省で農業？と感じる方も多いと思いますが、北海道は他県と異なり、生産基盤・物流基盤の総合的な整備により北海道のポテンシャルを活かすため（北海道総合開発計画を推進するため）、他の土木施設とともに農業関連施設の整備も国土交通省が所管しています※。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

当然、いろいろな施策が実施されていますが、皆さんがイメージしやすいものだと、次のようなものが挙げられます。

○自動走行トラクター（スマート農業）の実践に貢献する農地の大区画化に向けた取組

※ちょっと前になりますが、テレビドラマ「●町ロケット」のモデルも北海道です

○国土強靱化（防災・減災）などに向けた取組

※近年、自然災害が頻発していますが、北海道でも北海道胆振東部地震などの災害がありました。私が担当する事業地区も北海道胆振東部地震からの復旧・復興に向けて、関係機関と連携して対応しています。



北海道胆振東部地震により壊れた排水路（左）と、その後の復旧状況（右）



3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

私が担当する事業地区では、基幹的農業水利施設（ダムや頭首工（河川から用水路に水を取り入れる施設）及び用水・排水路）は、農地（約3,000ha）への安定的な用水供給及び農地（約1,500ha）の湛水被害を防止し、我が国の食料生産に重要な役割を担っています。

これらの施設は、戦後や高度経済成長期を中心に整備され、耐用年数が迫るとともに、積雪寒冷地特有の気象環境（凍結融解など）の影響により、耐用年数到達前においても急速な経年劣化が見られています。

私は、用水供給施設である農業用ダム、頭首工及び用水路の改修工事と湛水被害解消を図る排水路の改修及び遊水地の新設工事に関する工事監督を担当しています。

工事監督の中では、工事を安全かつ円滑に進めるため、農家、河川管理者、道路管理者、市町村等（以下、「関係者」）と協議・調整を行っています。

4. 苦労する点や、やりがいについて教えてください。

工事の着手前に想定される調整事項は、関係者と事前に協議・調整しますが、着手後に現地での状況が既存資料と異なっていることも少なくありません。着手前は時間をかけて準備できますが、着手後は工期も決まっていることから早急に調整を行わなければならない、素早い対応に苦労することもあります。

しかし、工事完了後は関係者から、整備によって以前よりとても良くなったといった言葉を頂くことがあり、そういった時にやりがいを感じます。

また、仕事は、上司や先輩等と一緒にチームで行っており、自身がチームに貢献できたと感じるときにもやりがいを感じています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省は、私が携わっている北海道農業だけでなく、河川や道路などのインフラを支えています。我が国の生活の根底を支える一助を担うことは、大変有意義なことだと思っています。同じ志を持つ方はぜひ国土交通省で一緒に働きましょう！

お米を作るためには、自分の右手の水田のように用水を供給することが必要です。改修工事により用水が安定供給できるようになった時は、農家の方にも喜んでもらえ、自分もやりがいを感じました。



私が工事監督している現場（左）と用水が安定供給されている水田（右）

※興味がある方は、「北海道開発局のあゆみ 60 年」（北海道開発局作成）の第 1 章第 2 節「北海道開発局設置の経緯」もご覧ください。北海道開発にあたって多くの議論がなされた歴史的経緯など深い話が見られます（<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/kouhou/u23dsn000001afu.html>）。